

## 看取り事例 (施設①)

## 施設) 医療者のサポートが不十分な事例

## (概要)

90代 男性 認知症 グループホーム入所中

## (経過)

今年7月頃、重篤な疾患はないが、徐々に食事摂取量が減り、ADL低下。本人は簡単な発言のみの会話であるが接する中で延命治療は望んでいないようだ。主治医より看取りの時期が近付いていると説明あり、家族からは「GHで自然な形で最期を迎えられるようにしたい。」という意向を聞き取る。しかし「苦しむのはかわいそうなので、その場合は救急搬送してほしい。」との発言あり。現在は体調がやや回復し食事量も持ち直している状態である。家族の気持ちにどこまで応えられるかスタッフ間に不安がある。

## (本事例で達成できていること)

## (本事例から見える課題)

## (目指す姿の達成に必要な要素)

令和2年3月31日(火)までに高齢福祉課にご提出ください。

提出先(担当外山) : E-mail: toyama-yoshimi@city.anjo.lg.jp または FAX 0566-74-6789

